

自転車用ヘルメットの着用と安全な使用に係る今後の取組（提言案）

	着用	安全性	適切な使用				
現状	<p>○ヘルメット着用率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年齢で自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されたが、都内の着用率は低い。 ・13歳未満の着用率が4～5割。 （平成20年から着用が努力義務化） 13歳以上は、着用率が約6%と非常に低い。 （令和5年から努力義務化） <p>○非着用者の意見</p> <table border="1"> <tr> <td>非着用理由</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・着用が面倒（47.9%） ・駐輪時にヘルメットの置き場所がなく荷物となる（38.6%） ・着用で髪型が崩れる（31.8%） </td> </tr> <tr> <td>こうであれば使いたいと思う点・改善点</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン（45.6%） ・外出先などで自転車を離れる際の持ち運びや保管のしやすさ（37.0%） ・通気性（31.9%） </td> </tr> </table>	非着用理由	<ul style="list-style-type: none"> ・着用が面倒（47.9%） ・駐輪時にヘルメットの置き場所がなく荷物となる（38.6%） ・着用で髪型が崩れる（31.8%） 	こうであれば使いたいと思う点・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン（45.6%） ・外出先などで自転車を離れる際の持ち運びや保管のしやすさ（37.0%） ・通気性（31.9%） 	<p>○法令、規格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内では、自転車乗車時に着用するヘルメットの安全性に関する法令規制は無い。一方で、任意の規格は存在する。 <p>○販売、購入実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自転車用の規格に適合したヘルメット」は販売、購入されている。 ・一方で「自転車用以外の規格のヘルメット」や「規格に適合しているか不明なヘルメット」も自転車向けとして販売されている。それらを自転車用ヘルメットと認識して購入し着用する人も一定数いる。 <p>○市販品の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自転車用以外の規格のヘルメット」や「規格に適合しているか不明なヘルメット」は、「自転車用の規格に適合したヘルメット」と比べて、衝撃吸収性等の性能が非常に低いものがある。 <p>○受傷事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット自体の性能不足により受傷程度が重くなった事例は確認できていないが、今後そのような事態が発生する恐れがある。 	<p>○使用実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットのかぶり方やあご紐の締め方が、適正ではない人が一定数いる。 ・強い衝撃を受けたヘルメットの使用中止や耐用年数を知らない人も多く、性能が低下したヘルメットを継続使用している人も存在すると考えられる。 <p>○受傷事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤った着用方法によると思われる受傷事例が確認されている。 <p>○使用方法等の表示と確認実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取扱説明書や本体貼付のシールなどに正しい使用方法等が記載されているが、全てを読んでいる人は半数程度である。
非着用理由							
<ul style="list-style-type: none"> ・着用が面倒（47.9%） ・駐輪時にヘルメットの置き場所がなく荷物となる（38.6%） ・着用で髪型が崩れる（31.8%） 							
こうであれば使いたいと思う点・改善点							
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン（45.6%） ・外出先などで自転車を離れる際の持ち運びや保管のしやすさ（37.0%） ・通気性（31.9%） 							

	着用	安全性	適切な使用
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに着用が努力義務化された年齢層（概ね中学生以上）を中心に、自転車乗車時のヘルメット着用を促す必要がある。 ・ヘルメット非着用者の意見（非着用理由やこうであれば使いたいと思う点など）を商品改善に反映させ、「これならかぶりたい」と感じさせるヘルメットの実現を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者が自転車乗車時にヘルメットを購入する際に、安全性が低い商品を選択しないように対策を講じる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誤った着用方法や性能が低下したヘルメットの継続的な使用を減らすため、ヘルメットの利用者に正しい使用方法等を理解してもらう取組が必要である。

	着用	安全性	適切な使用
提言（案）	<p>○着用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメット着用効果の訴求（アピール） →着用時と非着用時の頭部衝撃の差等を広報 ・自転車購入時や点検時にヘルメット着用を考えてもらう仕組み作り →自転車販売店や自転車安全整備店等での自転車利用者へのヘルメットの説明 ・ヘルメットを購入しやすい環境作り →購入補助制度の継続や拡充 ・ヘルメットをかぶりやすい環境作り →「着用が一般的」、「積極的にかぶりたい」等と思わせるようなポスター掲示やキャンペーン実施など <p>○商品の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車用ヘルメット自体の商品改善 →デザイン性が高い商品の開発 →持ち運びしやすい商品の開発（例：折り畳み式 など） →髪接触部の構造等を工夫した、髪型が崩れにくい商品の開発 ・ヘルメット以外の商品改善 →自転車に取付可能な「鍵付きのヘルメットホルダー」やヘルメットを入れて「施錠できる前カゴ」などの開発 	<p>○自転車用の規格に適合した商品の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性が高い商品の選び方の紹介 →規格の適合マークによる見分け （SG基準、JCF公認／推奨、CE EN1078等） →商品の構造による見分け （衝撃吸収材のカバー範囲、あご紐形状等） ・規格適合品の商品リストの提供 <p>○安全性が低い商品の規制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衝撃吸収性等の要求性能の法令化など 	<p>○正しい使用方法の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前から後にかけて水平になるように被る ・あご紐は緩すぎずきつすぎないように締める ・耐用期間（購入後3年間） ・強い衝撃を受けたものは継続使用しない →繰り返し衝撃を加えた際の衝撃吸収性能の低下などを広報 <p>○表示の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取扱説明書等における記載方法の工夫 →「重要部分の強調（太字、着色、枠囲等）」、「イラスト等での図解」など ・取扱説明書以外の文書の添付 →特に重要な内容や注意・警告事項を抜粋して記載したチラシ等の商品添付 ・本体表示の追加 →本体への「耐用年数」の表示を検討 購入時期を記入できるシール等の貼付を検討 <p>○試着の推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットの性能が発揮されるように、頭部のサイズや形状に合ったものを選べるよう、試着してから購入することを推奨